

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年7月1日(2010.7.1)

【公表番号】特表2009-541543(P2009-541543A)

【公表日】平成21年11月26日(2009.11.26)

【年通号数】公開・登録公報2009-047

【出願番号】特願2009-517064(P2009-517064)

【国際特許分類】

C 0 8 L 23/10 (2006.01)

C 0 8 J 3/24 (2006.01)

C 0 8 L 23/04 (2006.01)

C 0 8 J 9/04 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 23/10

C 0 8 J 3/24 C E S A

C 0 8 L 23/04

C 0 8 J 9/04 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成22年5月12日(2010.5.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも

(i) アルケニル置換アルコキシシラングラフト化剤；及び

(i i) 水；

の存在下において、

(a) 結晶性プロピレンホモポリマー、或いはプロピレンと 1 5 重量 % 以下のエチレン又は 1 種類若しくは複数の他の - オレフィンモノマーとのコポリマー、或いはこれらの組み合わせ；及び

(b) 1 5 重量 % 以上で 4 0 重量 % 未満のエチレンを含む、エチレンと他の - オレフィンとのコポリマー又は複数のコポリマーの組成物；

を含み、かつ 1 5 0 M P a 以下の曲げ弾性率を有する異相ポリオレフィン組成物 (I) を動的加硫することによって得られ、4 5 ~ 6 5 % の圧縮歪み値、1 0 を超える破断点伸び対圧縮歪み値の比、及び 9 0 より低いショア A 硬度値を有する熱可塑性加硫エラストマー。

【請求項 2】

6 0 0 % を超える破断点伸び値を有する、請求項 1 に記載の熱可塑性加硫エラストマー。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の熱可塑性加硫エラストマーを含む製造物品。

【請求項 4】

フィルム又は可撓性ホイル、射出成形物品又は押出し部分物品の形態の、請求項 3 に記載の製造物品。

【請求項 5】

請求項 1 に記載の熱可塑性加硫エラストマーを発泡させることによって得られる発泡ポリオレフィン組成物。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の発泡ポリオレフィン組成物を含む製造物品。

【請求項 7】

(i) 異相ポリオレフィン組成物 (I) を混合にかけ ; そして、混合しながら、

(i i) グラフト化剤によって該異相ポリオレフィン組成物をグラフト化し ; そして、工程 (i i) が完了した後に、

(i i i) 混合しながら水を加えてグラフト化組成物を架橋する ;
工程を含み、ここで、異相ポリオレフィン組成物 (I) は、150 MPa 以下の曲げ弾性率を有し、

(a) 結晶性プロピレンホモポリマー、或いはプロピレンと 15 % 以下のエチレン又は 1 種類若しくは複数の他の - オレフィンモノマーとのコポリマー、或いはこれらの組み合わせ ; 及び

(b) 15 重量 % 以上で 40 重量 % 未満のエチレンを含む、エチレンと他の - オレフィンとのコポリマー又は複数のコポリマーの組成物 ;

を含む、請求項 1 に記載の熱可塑性加硫エラストマーの製造方法。

【請求項 8】

グラフト化剤がアルケニル置換アルコキシシラン及び有機ペルオキシドを含む、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

架橋工程 (i i i) において、水を *in-situ* 水生成性架橋剤と一緒に導入する、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】

in-situ 水生成性架橋剤が、クエン酸カルシウム四水和物、乳酸カルシウム五水和物、硫酸マグネシウム七水和物、硫酸ナトリウム十水和物、酸化亜鉛とカルボン酸とのブレンド、アジピン酸、ホウ酸、或いはこれらのブレンドからなる群から選択される、請求項 9 に記載の方法。